

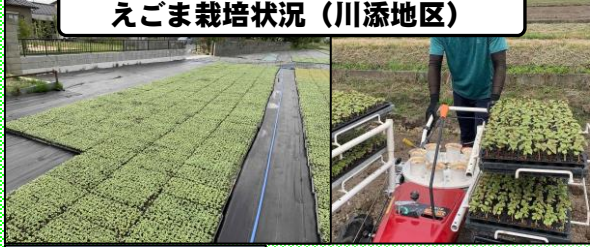
あぐりサポートニュース

～12市町村 復興再生への取組《浪江町》～

(公財)福島県農業振興公社

浪江町における営農再開状況及び営農再開に向けた取組紹介

えごま栽培状況 (川添地区)



川添17管理耕作組合
大高さん《認定農業者》



えごまの6次化!!

浪江町では、震災前の営農面積(2,034ha)に対し、令和4年度の営農面積は373ha(うち水稻244ha)【浪江町調べ】、営農再開率としては18.3%であり、多くの農業者が避難を余儀なくされる中、福島県営農再開支援事業を活用し、避難指示が解除されたエリアで、営農再開が徐々に進んでいます。

これまでに、栽培農家の努力により、風評を受けにくいとされるトルコギキョウ(東京大田市場では最高評価を獲得、東京五輪ビクトリーブーケとして提供)や除染後の痩せた農地でも育つ作物とされる、玉ねぎ・えごまなどを放射性物資等の安全性を確認したうえで出荷されています。(左記は、川添地区で栽培している“えごま”です)

現在の課題は、帰還者が少ない中、いかに地域農業の将来に向けた話し合い(人・農地プラン)を進めていくかです。既に営農再開している地域では、人・農地プラン作成に向け話し合いが進められておりま

すが、これから営農再開する地域では、話し合いができる体制が整っていません。そのため、継続した話し合いが行えるよう地域の代表等と調整し、まず地域の体制整備を図るべく取り組んでいるところです。

また、関係機関・団体の情報共有の強化を図るべく、町やJA、公社等で情報連絡会議を随時開催し、地域の担い手の情報等の共有を図っております。本格的な営農再開までの道のりは遠く、諸課題を乗り越える必要がありますが、関係機関・団体が共通認識のもと、地域の方々と十分な話し合いを継続していくことが解決策に繋がると考えております。

R4.9月に福島国際教育研究機構の立地が浪江町に決定し、周辺地域を含めた今後のまちづくりの中心となる推進役として期待されています。その中で、農業分野の活性化に向け、農地中間管理事業の推進を図っていきます。

地域座談会開催状況

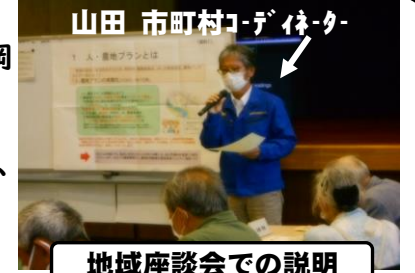


《市町村コーディネーター 自己紹介》

浪江町担当の山田茂(やまだ しげる)です(富岡町出身)。昨年度より浪江町役場の農林水産課に駐在しております。浪江町は高祖父母が生まれ育ったところ。自身のルーツでもある浪江町の再興のため、町民・役場などと連携して、担い手の確保、営農再開の課題解決に向けた話し合いに尽力し、まちづくりに繋げていきたいと考えています。



山田 市町村コーディネーター



地域座談会での説明